

一歩前進

～落ち着いた雰囲気の中に活気のある学校をめざして～
3つの『あ』…『あいさつ・あきらめない・ありがとう』…をベースに

「ありがとう集会」を開催しました!!

～「ありがとう」でいっぱい玉名町小に～

玉名町小学校の教育活動に日頃から様々な形でご協力いただいている地域・保護者ボランティア等の方々をお招きし、1月30日(金)に、本校体育館で「ありがとう集会」を開催しました。

集会では、約110名のお客様方の前で、学年ごとに(1年生から順に…+ひまわり学級1組)「歌」や「踊り」や「言葉」で日頃の感謝の気持ちを表現し、伝えていきました。



当日は、読み聞かせボランティアとして協力いただいている玉名女子高校の生徒さんにも大勢駆けつけていただき、子供たちの歌に合わせて一緒に口ずさんだり、踊りに合わせて踊ったり、歓声を上げたりと、場を大いに盛り上げてもらいました。

約1時間の集会でしたが、「ありがとう」がいっぱいの、とても心温まる時間となり、ボランティアの方々にもたいへん喜んでいただきました。

『ありがとう』は、3つの「あ」『あいさつ・あきらめない・ありがとう』の中の一つとして、これからもずっと大切にしていきたいと思っています。私の経験上、「ありがとう」という感謝の気持ちをもって過ごしている子供は、ぐんぐん力を伸ばしていきます。現在行われているミラノ・コルティナオリンピックを見ても、勝者は、必ずと言っていいほど、最初に感謝の言葉を述べられます。これからも「ありがとう」でいっぱいの玉名町小学校にしていきたいと思います!!

マッスルチャレンジ

インフルエンザの流行により、なかなか計画通りに実施ができなかったのですが、児童会体育委員会が中心となり、昼休みの時間を使って、学年ごとに「マッスルチャレンジ」(縄跳び大会)を行いました。

1,2年生は前跳びか後跳び、3,4年生はあや跳びか交差跳び、5,6年生は二重跳びで、連続してどれだけ跳べるかを、それぞれタイムで競います。



一発勝負ですので、思いのほか早くひっかかってしまって落ち込む子供もいますが、ほとんどの子供はすぐに気を取り直して、跳び続けている友達を温かく応援してくれています。周りの友達を、自分のことのように応援できるなんて素晴らしいです。とてもいい雰囲気です。また、最後まで残った子供たちは、びっくりするぐらい跳び続けることができ、これまた素晴らしいです。

体力アップも、これから生きていくうえでは欠かせません。いろいろな機会を利用して地道に体力をつけていきましょう!!

校長室から

1月16日(金)に、熊本県の小学校国語教育研究大会が本校を会場として開催され、各郡市代表の11名の先生方が本校の11の学級で国語の授業を行い、その授業の様子を県内各地から来られた約150名の先生方が参観されました。

授業者の先生方からは「子供たちが素直で、学ぼうとする意欲が高く、とても授業がしやすかったです」と、そして授業を参観された先生方からも「子供たちが落ち着いて、雰囲気も良く素晴らしいですね」と、たくさんの褒め言葉をいただきました。



今回は、学校だより『一歩前進』初の両面印刷となっています。裏面には、児童2名の作文を載せていますので、ぜひ、ご一読ください。

※ 明後日2月20日(金)は、授業参観・学級懇談会・PTA総会を行います。子どもたちの様子をしっかりとご覧ください。懇談会・総会まで残っていただくとありがたいです。たくさんのお越しをお待ちしています。

【心の輪を広げる体験作文 熊本県最優秀賞】

「区別しないぼくの生活」

四年 山口 悟

ぼくが、障がいのテーマの作文を選んだ理由は、ぼくには、すぐ書けると思ったからです。なぜなら、障がいのある人とよく会うからです。けれど、書き始めて気づいたことがあります。ぼくには障がいのある人との生活がふつうすぎてむずかしかったです。障がいのある人となない人の区別がつかない時がたくさんあります。

ぼくのお兄ちゃんは、障がい者です。どんな障がいかというと、交通事故で頭を強くうって歩き方をわすれて歩けなくなりました。でも今は、リハビリや放課後デイサービスなどに行っていてほとんど歩けるようになってきました。けれど、車イスをおもにつかって生活しています。

ぼくは兄といっしょに習い事に行きます。ツインバスケットは、障がいのある人だけではなく障がいのない人もさんかできます。ぼくも毎週、お兄ちゃんと水曜日に習いに行っています。ツインバスケットを教えてくれる先生たちは、足が不自由です。一人は手も不自由な人もいます。だけどツインバスケットのことをいろいろ教えてくれます。だからぼくは、先生達はツインバスケットがじょうずなのでふつうに歩けると思っていました。

チームすまいるは、障がいをもった人でもダンスできるチームです。その中で多い障がいはダウン症です。ほかにもちがう障がいをもった人もいます。その中でぼくもダンスを習っています。ぼくの関わり方は、障がいをもっていない人と同じ関わり方です。理由はみんな元気でやさしいからです。

ぼくが、ツインバスケットを知ったのはパラスポーツフェスタくまもとという場所です。お兄ちゃんが車イスマラソンに出た時にいろんなスポーツがありました。その中でツインバスケットがあつてびっくりしたので今習いに行っています。みなさんもこういうところに行ってみてください。そして、障がいのある人との関わりを深めてみてください。そしたら障がいのことをよく知ることができ、障がいのある人との関わりが身近に感じられると思います。

【「小さな親切運動」作文コンクール 熊本県優秀賞】

「ガラガラおじちゃんのたけのこ」

三年 田中 吉弥

ぼくの家の近くに声がガラガラのやさしいおじちゃんとよくしゃべる元気なおばちゃんのおうふが住んでいます。

ある日、お母さんがたけのこをたくさんもらってきました。「だれにももらったと？」

と聞くと

「ガラガラおじちゃんよ」

と、お母さんは言いました。その夜お母さんがゆでてくれたたけのこはホクホクでとてもおいしかったです。

数日後の下校中、えんがわにすわっているガラガラおじちゃんのがたが見えました。そこでぼくは道路から、

「おじちゃん、こんにちわ！ たけのこたくさんありがとうございまして！ おいしかったです！」

と、声をかけました。おじちゃんは、

「おう。」

と言ってにっこり笑って手をふってくれました。

また何日かたつて学校から家に帰ると、お母さんがきげんよく歌を歌っていました。

「何か良い事あった？」

とぼくが聞くと、お母さんは、

「今日ガラガラおじちゃんの前を歩いていたら、おしゃべりおばちゃんに『田中さん！』ってよばれて、何かと思ったら、たけのこのお礼を言ってくれたのね。おじちゃんがよろこんでたつて。自分からあいさつもお礼も言えてえらい、今どきそんな子はおらんってすごくほめられて、お母さんとってもうれしかったよ。」

と言って、ぼくのかみの毛をくしゃくしゃにしました。

ぼくはおいしいたけのこをもらったので、おじちゃんにお礼を言うのは当たり前だと思っていたけれど、こんなにみんながうれしい気持ちになるんだなと思いました。これから、あいさつと、「ありがとう」という気持ちはきちんと声に出して伝えようと思いました。